資料２

◎方針・柱・施策（案）に対する検討委員会委員の意見と事務局の考え方

## 方針１　自立心と主体性のあるより良い社会の創り手を育てます

| 検討委員会委員の意見（概要） | 事務局の考え方 |
|---|---|
| － | 目指す姿や方針２の表現を考慮し方針１を修正します。 |
| 柱１施策２「個に応じた指導」は、「個に応じた学び」という表現の方がよいのではないか。似ているが、一人一台端末の整備などもあり、学び方自体を子どもが選択しやすくなってきている。指導だと、教師がしっかり教え込むというニュアンスがある。 | ご意見のとおり、子どもの学び方の視点で述べる方が良いと考えますので、「個に応じた学び」に修正します。 |
| 柱１施策３「グローバル化社会・情報化社会」は、一文に併記する重さではなく、別の施策に分けた方がいいのではないか。 | 「グローバル化社会・情報化社会で生きる力の育成」は、社会環境を鑑み、あえて別建てにしていましたが、「主体的・対話的で深い学びの実現」「個に応じた学びの充実」に含まれる内容であり、別建てによりバランスの悪さも生じるため、施策３は削除します。 |
| 保育・幼児教育の話が不足していないか。縦割りの問題もあり、また、幼児期から詰め込めばよいという話でもないが、柱１施策４「学びの連続性を重視した教育の推進」の中で扱えるのではないか。 | 保育・幼児教育はこども育成部所管の「子ども未来プラン」で位置付けます。教育振興基本計画では、就学前教育との連携を「学びの連続性を重視した教育の推進」の中で扱いますが、ご意見を踏まえ、他分野の計画とのつながりが見えるような工夫を検討します。 |
| 方針・柱・施策の中で、「柱」だけが比喩的表現になっている。「テーマ」「主題」「重点」、若しくは「確かな学力『編』」など、具体的な言葉になればいいのではないか。 | 「柱」は、施策を分類するために設定していますが、方針や施策と同じような表現にしてしまうとかえって分かりづらくなってしまうため、ご提案いただいた言葉も含めて検討し、「柱」とすることが最も体系を分かりやすく示せるのではないかと判断しました。 |

## 方針２　多様性を認め合う共生社会の担い手を育てます

| 検討委員会委員の意見（概要） | 事務局の考え方 |
|---|---|
| 子どもを含む市民が読んで分かりやすい言葉で、心に響くような書き方がされていることが大切。自己肯定感や他人を思いやる心を持つ人に育ってほしいという考えから、柱１施策１を「自分を大切に、他人を気遣う心を育てます」に変更してはどうか。 | ご提案いただいた内容は、「目指す姿」に込める強い思いとして入れたいと考えています。施策としては、より具体の内容が良いと考えますので、原案のままとします。 |
| 柱１施策２「いじめ・暴力行為への適切な対応」を強くした方がいいと感じるので、「毅然とした対応」に修正してはどうか。 | いじめや暴力行為に対しては毅然とした対応はもちろん、粘り強い指導・相談など様々な対応が重要ですので、原案のままにしたいと考えています。 |
| 柱２施策２「不登校児童生徒に対する支援の充実」は、「児童生徒に対する」という記述だと主体が子どもになるのでイメージがよくないのではないか。「不登校課題に向けた支援の充実」等の文言へ修正してはどうか。 | 不登校となった児童生徒に対する支援だけでなく、不登校の未然防止にも取り組むため、ご意見を踏まえ、「不登校に関わる支援の充実」と修正します。また、柱２施策３も同様の趣旨で、「外国につながりのある児童生徒に関わる支援の充実」に修正します。 |

## 方針３　生涯を通じた学びを支援します

| 検討委員会委員の意見（概要） | 事務局の考え方 |
|---|---|
| 方針３の修正はとても良い。学校教育に加え、横須賀の大人と子どもが関わる社会教育の領域も包括することで、市の教育振興基本計画として重層的な全体像が示されたと思っている。 | － |
| 大きく社会教育・生涯学習が出てきたと思うが、「図書館・博物館・美術館の充実」では具体的に何なのか分からず、いつもの言葉になってしまう。「社会教育施設の充実」と書いても弱い。市民の学習の場と学んだことを生かすことに重点を置くという趣旨で、以下のとおり柱１の修正を提案する。<br>施策１　子どもから高齢者まで年齢を問わず学べる機会の提供<br>施策２　学びを生かす場の充実<br>施策３　横須賀が誇る文化遺産の活用と将来への引継ぎ | ・施策１は、より分かりやすいご提案の表現に修正します。また、「学びの成果を生かせる場の充実」を施策として別建てし、これら２つの施策をまとめて柱「人生 100 年時代の学び合い」に修正します。<br>・図書館・博物館・美術館が揃っているのは横須賀の特徴なので、別建てする方が良いと考えます。表現については、ご意見を踏まえ修正します。（後述）<br>・施策３は、「引継ぎ」だと少し事務的な印象になるかと思います。「継承」は技術・財産を受け継いでいくという意味も濃いので、少し硬いかもしれませんが原案でいきたいと思います。なお、ここだけ「横須賀が誇る」とは入れず、思いは目指す姿に込めます。 |
| 修正前は方針３として記載があった「地域ぐるみで子どもを育てます」という表記がなくなったが、柱２「地域における学び合い」に含まれていると解釈している。地域で学び合う結果、地域への還元につながり（学びを生かす場）、横須賀の子どもたちのよきモデルとなる人間像になってほしい、という含みと捉えた。学びを生かす場を大人世代も望んでいると思うので、成人の学び支援への強化が感じられる。 | ・上記のとおり、成人の学び支援、学びを生かす場の施策をまとめ、柱「人生 100 年時代の学び合い」とします。<br>・なお、地域での学び合い、地域への還元を通じて横須賀の子どもたちのよきモデルとなる人間像になってほしいという思いは、「目指す姿」の「横須賀が好き」の中に込める、いう考えです。 |
| 柱１施策３は「図書館・博物館・美術館・芸術と自然環境に触れ心を豊かにする活用」と付け加えたらどうか。現行計画も芸術や自然環境のことが入っていないので、是非入れてほしい。 | ・図書館・博物館・美術館を市民に知ってもらい、触れてもらい、心を豊かにしてもらうということが大事だというご意見だと思います。そのため、「豊かな学びの推進」という表現に修正したいと思います。<br>・また、施策「文化遺産の活用と将来への継承」と合わせて「地域の歴史・文化・自然から得る学び」としてひとつの柱にしたいと思います。芸術については、美術等と合わせて「文化」に含める考えです。 |
| 図書館・博物館・美術館は市民には充実した場だが、特定のﾘﾋﾟｰﾀｰが多いとも考えられる。興味がない子ども・人にどれだけ活用されるか、足を運ぶか、学芸員等専門家が市民向けの学びの機会に触れているか等関わる大人の意識が施策２に通じる。横須賀らしさを持つ文化施設がどのような場か知らない人に知ってもらう、来てもらう、紹介してもらう、身近に感じてもらうことを意識し、「横須賀の図書館・博物館・美術館の特徴と活用機会の周知」を提案する。 | |
| 柱２施策２「地域の教育資源・学習環境の活用」は、これだけが手段にウェイトを置いた話になっており、 | ご指摘のとおり、「地域の教育資源・学習環境の活用」はここだけ手段にウエイトを置いた話になってしま |

| | |
|---|---|
| やや気になる。方針３など随所に地域資源の活用は関係してくるので、ここで特出しする必要があるかは要検討 | うので、施策としては特出ししない形に修正します。 |
| 施策の中身次第だが、教育関連だけでなく、福祉や市民協働部局とも連携していく話である。生涯学習が健康寿命を延ばすことや市民自治にもつながっていくからである。教育振興基本計画の射程をどの程度に置くのかにもよる。 | 福祉部局や市民協働部局との連携について、他分野の計画とのつながりが見えるような工夫を検討します。 |

## 方針４　持続可能で魅力ある教育環境を整えます

| 検討委員会委員の意見（概要） | 事務局の考え方 |
|---|---|
| 適正規模の学校配置、統合化の検討も含ませる必要がある。 | 「児童生徒数の減少等に対応した学びの環境整備」とすることで適正な学校規模の必要性を含ませます。 |
| 急激かつ大規模な子どもの減少が起きそうな中での持続可能な学校づくりという視点で、統廃合の話はﾅｲｰﾌﾞで書きにくいかもしれないが、社会変化に即した教育環境の中で何をどこまで書くか要検討 | |
| 柱１施策２「学校の安全・安心の推進」は最も大事で市民の関心も高いので、施策の最初の方に持っていった方が良い。 | ご意見のとおり、最初の施策に繰り上げます。 |
| 柱１施策２の「学校の安全・安心」とは具体的に何を指すのか気になった。設備面なのか、いじめ等の児童への課題なのか、教職員の質に関するものなのか、具体化が必要だと感じた。 | 「学校の安全・安心」は、施設・設備の整備、緊急時の体制づくり等を指しています。いじめ等への課題は方針２、教職員の質については方針４の施策に位置付けることで整理できるのではないかと考えています。 |
| 施策の中に学校施設の長寿命化や職場の労働衛生環境についての文章が欲しいと感じた。 | 学校施設の長寿命化は「学校の安全・安心の推進」に、職場の労働衛生環境は教職員の働き方に関係しますがいずれも施策に基づく具体の課題と捉えています。 |
| 柱１施策３「家庭の経済状況への対応」のネーミングは要検討。就学などで困難を抱える家庭への支援ということだと思うが、経済的な理由等で学びをあきらめないという趣旨が入ると良い。 | 「家庭の経済状況への対応」では、就学援助、奨学金支給といった取り組みを想定していますが、目的はあくまで子ども自身が学び続けられるようにすることなので、ご意見を踏まえ「経済的理由で左右されない学びの機会均等」に修正します。 |
| 「経済状況への対応」は、もう少し具体に迫る表現が良いのではないか。支援、配慮、手助け等。 | |
| 「家庭の経済状況への対応」は、就学援助や福祉施策（教育扶助）への焦点化に見えたが、家庭への援助が目的ではなく、「子ども自身が学ぶこと」が主眼と思われるので「学び続けるための教育環境の保障」「経済的負担の軽減に向けて」等の項目で、義務教育（普通教育）・高校教育（専門教育、職業教育も含む）を保障するという目的・内容を強調してはどうか。 | |
| 経済状況と並べて教育環境として必要なことに、養育 | 家庭教育の支援、家庭の教育力向上という観点につい |

<table>
<tr><td>環境、生活環境に触れたい。家庭運営や子育て観への第三者の関与は難しいが、保護者（養育者）が子どもに与える影響は大きい。家庭機能が崩れないことが理想だが、不適切な教育環境に気付き必要な支援に繋げられるのは公的機関である。保護者向けに様々な学びの機会が用意されているが、自ら出向かなければならない。出向かない層に向けて、親となる過程に関わる施策を提案する。家計の自立に拘らず、公助のｼｽﾃﾑを知る、支援を求める、手続きができる等の力を家庭や各人が持つことも家庭力の向上と考える。</td><td rowspan="2">ては、方針３の施策「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」に含めていますが、方針３は生涯学習の側面が強いため、方針４に変更します。学校だけでなく、家庭、地域との連携がより必要な時代になっているという点で、社会環境の変化に即した持続可能な教育環境を整備するという趣旨の方針に位置付ける方が適切という考えです。<br>なお、家庭教育への支援についてはこども育成部の「横須賀子ども未来プラン」での位置付けがありますが、他分野の計画とのつながりをどのように見せるかの工夫を検討します。</td></tr>
<tr><td>持続可能を「子どもの学ぶ意欲の継続」に置き換えると、家庭の経済支援に加え、養育者の能力も必要。教育振興基本計画は都道府県で 98%、市区町村で 52%が家庭教育支援に関する記載がある。「経済状況への対応」と明記せず「(学ぶ意欲を継続するための）家庭教育の推進と家庭力の向上」と修正してはどうか。まず家庭が人を育む場として正常に機能することが、目指す教育に向かうために必要と考える。</td></tr>
<tr><td>生活困窮者の施設・事業利用料の減免など、大人の学習機会の保障のための経済面の対策強化も含めてはどうか。</td><td rowspan="2">ご指摘の施策については、民生局（福祉部、健康部、こども育成部）との連携となりますので、どのように教育振興基本計画に位置付けるか、また、他分野の計画とのつながりをどのように見せるかの工夫を検討します。</td></tr>
<tr><td>中学校卒業、又は高校卒業後の子ども、若者支援の視点が不足していないか。例えば、高校を中退した子が非行に走ったり、ひきこもりになったりするケースがあるが、国も県も市も、大変支援が弱いのではないか。中学校までは義務教育なので市が実態把握できているが、卒業後は誰も把握できていないということになりかねない。</td></tr>
<tr><td>柱２施策１「教職員の資質・能力の向上」は、社会教育分野の指導系職員（社会教育主事、司書、学芸員など）の専門性の向上を含めてはどうか。そのため、施策１を「教育に携わる教員・職員の資質・能力の向上」などに変える、又は社会教育に携わる職員・スタッフに関する施策を追加してはどうか。</td><td rowspan="2">・社会教育分野や事務職員も資質・能力向上が当然重要ですが、職員の育成を内部的な課題と捉えると、市民への計画として前面に出すことに躊躇します。<br>・職員の育成という点では教職員も同じですが、教員不足、経験不足、多忙化、これらに伴う授業力やコミュニケーション能力の課題は、学校現場で児童生徒の教育に直結する特に大きな課題と考えていますので、学校教育に特化した形になりますが、原案のままでいきたいと考えています。<br>・なお、柱のタイトルは「学び続ける教職員」に修正します。働き方改革の推進も、教職員が学び続けられるような（時間的にも精神的にもゆとりのある）環境づくりに通じると考えられるためです。</td></tr>
<tr><td>柱２施策２「いきいきと働く教職員」は、学校教育に限らず資質・能力の向上（専門性の向上）の要素を加味し「教育に携わる教員・職員が学び続け（又は専門性を高め)、いきいきと働く環境を整える」等対象・内容を膨らませてはどうか。学校教員に関しても自治体の教員育成指標や研修計画が示されるようになり「学び続ける教師」像がｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞになった。</td></tr>
</table>